

アルゼンチン製車、国境で足止め（2011年7月15日付けエスタード紙）

ブラジル・アルゼンチン間で45日前に締結した協定も不遂行、自動車、靴、繊維製品、食料品は依然足止め、輸出入許可待機中である。

靴・繊維製品・食糧品・自動車その他製品の輸出入を徐々に自由化する、と両国政府がくわえタバコで協定を取りつけた1ヵ月半後にも、国境での製品足止め状態が変わらず続いている。両国代表者が問題緩和に努める間にも、6月初めに発された「善意のレター」は輸出業者にとって状況改善にはならなかったとセクターから苦情の声があがっている。

アルゼンチン自動車セクター情報筋によると、非自動輸出入許可制度による許可待ちで現在4万台がブラジル入り待機状態であるという。一部は国境に、別の一部は手続き中、また別の一部は税関に。地元工場内で待機中の輸出向け車両も多いという。

同じ情報筋によればこの月曜日からはブラジル入りを果たしたのはわずか5,000台。アルゼンチン産業相は、出国に遅れがあるものの貿易「制限」ではなく、ブラジル港湾のロジスティック問題と認識する旨を述べている。先週水曜日からは今週水曜にかけてブラジル政府は1万8,500台のアルゼンチン製車両の輸入を許可したと強調する。

一方クリスティーナ・キルチネル大統領陣営は、ブラジル入国が遅れている自動車在庫は1万台のみとする。しかしエスタード紙の調査によると、フィアットだけでもおよそ4,000台の車両が両国間国境で足止めされているという。そのうちシエナ車はアルゼンチンからブラジルへの輸入。ルノーも数千台が足止め。同社はクリオ車、シンボル、フルエンス、カンゴ車アルゼンチンから輸入している。クラシック車、アジナル車を輸入するGMは最も損害を受ける企業の一つであろう。

全国自動車工業会（Anfavea）の発言は事を荒立てないよう、自動車部門は両国間貿易の25%を占めており、通常化に向けて両政府が前向きな解決策を取ることを待ち望んでいると言うに留まる。

アルゼンチン産業相デボラ・ジョージとフェルナンド・ピメンテル商工開発相によって6月に両国間で締結された協定は、非自動許可制度の許可時間短縮と輸入コントロールのための実用的な措置導入を規定したものであったが、その協定も実行されていない。「許可の下りないブラジルのビスケットやお菓子が3月からある。」とアルゼンチンの輸入商議所の一人は言う。

ブラジル履物工業会（Abicalçados）によると、アルゼンチンとの国境倉庫に許可待ちの靴が大量にあるという。世界貿易機関（WTO）が定める60日を大幅に上回る210日以上という足止めをくらっている靴が少なくとも3,200足。他、90日から200日の許可待ちが数千足ある。

ブラジル繊維工業会（Abit）は「止まっているものが大量に」とあり、両国政府調整の行き詰まりが続いている、とも指摘する。「何も変わっていない。話し合いは何の一步ももたらさなかった。」と同組合の一人は言う。

港湾

この問題によりブラジル港湾のオペレーションにも影響が及び、港湾のインフラに支障をきたしている。ラテンアメリカ最大のサントス港では、1ターミナルだけでも2,000台の車両がアルゼンチンから到着、許可待ちで留まっている。それらの車両が占領するスペースは既に需要を超えており、その他のオペレーションの障害になっている。「このような状況では使用可能なスペースがありませんから企業も荷積みを拒まざるを得ません。」とオペレーターの一部は言う。

同オペレーターによると、ヤードが埋まっていると船舶の寄港に影響が出るそうだ。積荷がターミナルを占領している場合、貨物を降ろすスペースがなくなってしまう。そのため全ての貨物を降ろす為他の港へ寄港せねばならない。

したがって常に特定の港で受取をする輸送システムをとっている輸入企業でも、別の輸入手段を計画せねばならない。例えばサントス港で荷降ろしのものがリオ・デ・ジャネイロへ変更ということもあり得るのだ。